

自由診療「Physical Care Unit（フィジカルケアユニット）」の運営実績と検証

医療法人社団 北原脳神経外科病院 Physical Care Unit

○ 倉田 考徳

昨今のリハビリテーション（以下リハビリ）に求められるニーズは多様化し、単に疾患の後遺症や障害に限られなくなってきた。リハビリニーズは疾病予防・アンチエイジング・ダイエット・スポーツ分野など保険診療では十分まかなうことができない分野に及んでいる。また、脳卒中患者などのリハビリ日数制限はいわゆる“リハビリ難民問題”として社会問題となった。しかし、その後も介護保険制度や福祉分野におけるリハビリテーションのインフラ整備の遅延などにより、多様なリハビリニーズに応じきれない現実が存在している。

リハビリは医療と福祉、施設と地域のチームアプローチによって患者本位に行われるべきである。その中で我々が担う使命は、社会制度に左右されずに「患者ニーズを聴き、ニーズに効く」リハビリを展開することであると考えます。

当法人では平成20年11月、自由診療によるリハビリテーション部門「Physical Care Unit（フィジカルケアユニット）」を開設した。Physical Care Unitの開設目的は既述したリハビリニーズに対し、柔軟でマルチなリハビリを展開することである。開設から試行錯誤を繰り返し1年の運営実績を得た。そしてこの度、運営実績の後方視的検討とアンケート調査による検証を行った。

後方視的検討の調査期間は平成20年11月1日～平成21年10月31日の1年間で、症例数は1804症例であった。それらから年齢比、男女比、目的・症状比較を行った。また、平成22年1月に行ったアンケート調査より患者満足度を抽出した。

これらの情報を基に Physical Care Unit が患者ニーズに即しているのかを検討したので、今後の課題も含め報告する。